



悩めるリーダーとリーダーのたまごのための

自分らしさ発掘ワークショップ(全3回)

“リーダーになったばかりで、うまくリーダーシップがとれない”

“そのうちリーダーになると思うけど、自分はリーダーに向いてないのでは…”

女性がキャリアアップしていく中で、「リーダーになることへのためらい」が生じる現状があります。

今回は、『自分らしいリーダーシップとは?』をテーマに、自分と向き合い、発掘し、自分らしさを認識して自分らしいリーダーシップを考えよう!というワークショップを開催しました。

自分らしさを発掘するために使った手段は…

エム ビー ティー アイ
M B T I®

です!



MBTI® とは??

(Myers-Briggs Type Indicator)

ユングのタイプ論をもとにした、世界45か国以上で活用されている国際規格に基づいた性格検査です。性格検査はきっかけであり、有資格者とのフィードバックセッションで自己理解を促すことを重視しています。MBTIで得られることや活用方法を理解し、組織開発やチームづくりに活用します。2015年ラグビーワールドカップで、強豪南アフリカを撃破したラグビー日本代表を率いたエディ・ジョーンズヘッドコーチが、チームづくりの一環としてMBTIを活用してきたことが知られています。

参加者の声

苦手と思っていたことも、自分のタイプと知ることができ、自分の傾向を学べたので、対策を考えていきたい。

リーダーという立ち場になり、右も左も分からないままの状態であっていたのが、今回の研修で、「リーダーとは」ということを考える機会になり、考え方が少し変わった。

リーダーはこうあるべき、という考えを持っていましたが、色々なリーダーがいていいのだと安心しました。

自分のタイプを知って、自分には指示を明確にした方が働きやすく、変化を苦手とする傾向を知り、また、人と仕事をするときにどう歩みよればいいのかを学ぶことができた。

自分らしいリーダーシップが、少し見えてきた。他のタイプのメンバーと強みを活かしあいながら、“利き脳”ではない部分も鍛えていきたい。



第1回 自分のタイプを知ろう！

MBTI® 受検

MBTIを受験し、16に分けられたタイプのうち、自分がどのタイプに属するかを出しました。

フィードバックエクササイズ

自分のタイプを深掘りするための講義とワークショップを行いました。

こんなワーク
をしました

メルマガ配信！
(タイプの特徴について)

- ・感動的な場面を一人で見たら、どのような行動をとりますか？
(携帯やカメラは持っていません)
- ・『雨』と聞いて、連想することは何？



第2回 自分らしいリーダーシップを見つけよう！

タイプの特性をより深く学び、タイプによって異なった考え方や感じ方がある、ということを通して体感しました。

タイプを知ることにより、「分かり合えなさ」や「能力の過小評価」に繋がらないよう、お互いを補いあえる関係性を築けることができます。

こんな学びが
ありました

メルマガ配信！(総復習編)

- ・部下への指示が、「詳しい方がよい」人と「全体的な方向性だけ伝え、方法はお任せ」の方がよい人がある。
- ・“意見と人格は別”と考えるタイプの人と、“自分の意見を否定されると自分自身が否定されたと感じる”タイプの人がいる。



第3回 これからのキャリアを考えよう！

自分らしい リーダーシップの可視化

ワークシートを使って自分の“強み”や、自分らしいリーダー像を可視化し、それにより、認識を深め、今までぼんやりしていたイメージがはっきりしてきました。

自分の強みと課題がより分かり、自分らしいリーダー像を具体的にイメージできました。



10年後の日本

～そのとき、必要とされるリーダーシップは？～

10年後、ITの進化や気候・人口変動により、社会情勢は今よりも早いスピードで大きく変化していると考えられます。

その時代に、どんなリーダーシップが求められているのかをワークで考えてみました。

交流会 =ワールド・カフェ=

Points of You®(ポインツ オブ ユー)を用いて、自分らしいリーダー像の総決算をしました。

「こんなリーダーになりたい」というイメージに合う写真を3枚選び、なぜ選んだか、どういうイメージで選んだか、などを共有しました。



「Points® of You」 カード

※講師の越先生は、
Points of You®
認定エバンジェリストです



Discovery!!

理工系女子ワールド

キャリアデザインの後押しを

女性のロールモデルが少ない理工系の分野で、実際に働く女性社員の声を直接聞くことにより、主に女子中学生が自分のキャリアについて具体的なイメージを持つ機会を提供するため、明石市内の中学生を対象に、“理工チャレンジ(リコチャレ)”を開催しました。

昨年に引き続き、市内企業であるキャタピラージャパン明石事業所と協働し、理系の仕事を体験するプログラムや実際に働く女性の声を聞くことができるランチセッション、工場見学やショベルカー試乗など、新しい発見がいっぱいの1日となりました。

プログラム

- ◇ 会社紹介(明石事業所・山之内総務課長)
- ◇ わくわく体験プログラム
 - ▶ エンジンの中身を見てみよう！
 - ▶ レゴブロックで作ってみよう！
 - ▶ 3Dモデルを作ってみよう！
- ◇ ランチセッション
- ◇ VR体験 / 工場見学 / ショベルカー試乗
- ◇ 今日の日を振り返ろう

開催データ

- 日時
2019年12月25日(水)
午前9時30分～午後3時30分
- 場所
キャタピラージャパン明石事業所
(明石市魚住町清水1106-4)
- 参加者
23名
- 共催
キャタピラージャパン明石事業所
明石市男女共同参画課

「仕事のやりがいとは？」
「どんな仕事？」
「困ったことは？」



▲ランチセッション

体験プログラムの様子



エンジン

それぞれのネジにあった工具を使用し、小型エンジンを分解・組立するプログラムです。なかなか見ることでできないエンジンの中身にドキドキ！



レゴブロック

ルールや手順を守らないと、ショベルカーを完成させることはできません！途中で部品を落とすと減点！かなりの集中作業です。難しい～



3Dモデル

英語表示のソフトを使って自分好みのショベルカーを設計！そのショベルカーを入れたオリジナルのクリスマスカードも作りました。



参加者の声（アンケートより）

とても良い経験ができました。
まだ分からないけど、将来
キャタピラーさんで働いてみ
たいと思いました。

理工系への興味

実施後平均 **83.2%**

参加前平均 49.0%



VR体験



VR体験で、実際は入って見る
ことができない所をすごくリア
ルに見ることができた。

会社紹介



工場見学では、「安全」と
表示してあり、社員の安全
を考えているのが良いと
思った。

自分はまだやりたいことがよ
く分かりませんが、やりたい
こと・やってみたいことの選
択肢の一つになりました。

振り返り



就職までの話が
きけてよかった

中学生のうちに、
英語を勉強して
おくほうがいい
と思った。

ショベルカー試乗



工場見学で、
200mの長い
レーンで、先に
進むにつれどん
どん完成に近づ
くのが面白かつ
たし感動した。

社員さんとお話
して、勉強の
大切さを知った。

ここでしかできない体験や女性社員との交流は、
まだはっきりと将来をデザインしていない中学生に
とって、自分のキャリアを考えるよい機会となりま
した。

参加した中学生にとって、「理工系」という選択肢
が特別なことではないこと、女性が活躍できる事業

所が身近にあることも実感できた1日になっ
たのではないのでしょうか。

性別に関わらず、自分が望む
進路やキャリアを選択できるよ
う、今後も若い世代のキャリア
形成を応援していきます。





あかし女性応援講演会

チャンスを断らない

～その先に見えたもの～

チャンスをつかめる人へ

- ・男性社会の壁を感じる…
- ・ロールモデルがないから不安だし孤独を感じる…
- ・自信が持てないがためにチャンスを断ってしまう…

このような悩みが、女性活躍を阻む要素となっているため、
一歩を踏み出せない女性が多くいます。

チャンスをつかめる人になるためには、どうすれば…？

女性が一層活躍できる社会の実現のために、前尼崎市長で
あり、様々なチャンスを断らずにチャレンジし続けている
白井文さんに、その先に見えたものをご講演いただきました。

プログラム

■開会あいさつ
代表 崎野 圭子

■第1部
講演会
「チャンスを断らない ～その先に見えたもの～」

■第2部
交流会「聞きたいことが聞ける交流会」

■閉会あいさつ
副代表 小河 作江

開催データ

■日時
2020年2月8日(土)
14:00～16:00

■場所
複合型交流拠点ウィズあかし学習室704
(明石市東仲ノ町6番1号 アスピア明石北館)

■参加者
【第1部】60名【第2部】40名

講師

白井文 さん(前尼崎市長)



▲ 講演会の様子

【第1部】講演会

ご自身が育ってきた環境やプライベートな過去など、他ではなかなか聞けないエピソードもお話いただき、
実際にご自身が経験してきた壁や逆境を例に、どう乗り越えてきたのかを講演していただきました。

SDGsやジェンダー平等の視点からの意見も述べられ、女性が声を挙げ、行動を起こしていく大切さを訴えられ、現在取り組まれている「ガールアップセミナー」の紹介もありました。

【第2部】交流会

参加者からの質問をホワイトボードに貼りだし、主な質問に答えていくという形式で進められました。

質問で多かったのは、「未知の世界に飛び込む勇氣、チャレンジ精神、プレッシャーについて」「なぜ名前を変えたのか」「市長時代の話」「落ち込んだ時の回復法」「女性の活躍」などでした。



君たちは 社会を支える人になれ

学生時代6年間お世話になった
恩師のメッセージの一部

議員という一歩を踏み出していなければ、
市長選挙という大きなチャレンジはなかった

1歩何かを始めるということは、次の扉を開くきっかけになる。
何もしなかったら何も始まらないし、何の変化もうまれない。
何か自分の中でちょっと踏み出すということによって、どんどん扉や窓が開いていって、押してくれる人が出て、みたいな変化が起きてきた。



自分達の限界を自分で決めない。
いろんなことにチャレンジして、どんどん
進んでいこう、というエネルギーが
チャレンジする先に見えてきた。

誰かと比べる必要は全くないし、自分一人ひとりが違っていい。何か新たなことにチャレンジし、1歩踏み出すことで、また新しい出会いや可能性が広がっていくのではないかな、と思っている。



前向きな
原動力の一つは、
「怒り」。
怒りと自分に対する
自負心が原動力。

優秀な人がたくさんいるにもかかわらず、
私は無理、とか経験がない、といって
指名されたり推薦されたりしても
引いてしまう人がいるが、
そこは失敗してもいいので
挑戦してほしい。

自分のことは自分では分からない。
他人のほうが分かってくれたりする。
他人から頼まれたり、こうしたら？と言われたら、
自分ではできないと思っていてもできるのかな、と考えてみる。



▲ 交流会の様子

自分達の周りにある、困っている
状況や間違っていることを
聞き流さず、いちいち言っていく。

女性が勇気をもってそう言った時に、
男性が「その通り」と
一緒になって言ってくれれば嬉しい。

今、日本では、今までの仕組みや制度に
問題が生じてきているのではないか

誰ひとり取り残さないというような概念はなかったのではないか。そういうところにクローズアップして仕組みや制度を見直していかなければならないのではないかと。そのためには女性の力が必要。様々な分野、ロケーションで女性がメッセージを発信し、行動を起こしていくことが大切。